



公益社団法人 埼玉県看護協会

さいたま

Nursing



秩父夜祭 下郷笠鉾と花火 (提供:秩父観光協会)

No. **133** 2022.11.24

特集1 ともに、つくる、「看護」
災害に備える

4~5

特集2 ともに、つくる、「看護」
感染管理認定看護師の活動 地域における活動の紹介 6~7

- ❖ ごあいさつ 2
- ❖ 第16回埼玉医療安全大会／サードレベル閉講式 3
- ❖ 選挙管理委員会・推薦委員会からのお知らせ 8

会員数 **24,989**名 (2022.8.31 現在)

保健師

397名

助産師

936名

看護師

23,106名

准看護師

550名

埼玉県看護協会ホームページ
<https://www.nurse-saitama.jp>



ごあいさつ

公益社団法人埼玉県看護協会

常務理事 佐藤 啓子



会員の皆さまには、日ごろから協会活動にご理解・ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は3年目を迎えた現在も感染者数の増加、減少を繰り返しており、現場で対応されている看護職の皆さまには心より感謝申し上げます。私は令和3年度に常務理事に就任し、ナースセンター事業等を担当しております。

これまで埼玉県看護協会は、新型コロナウイルス感染症対応として、令和2年は軽症者宿泊療養支援、帰国者・接触者相談センター、防護具等の支援、令和3年は、ワクチン接種講習会の開催、ワクチン接種・酸素センター等のコロナ関連の就業者の確保等に取り組んできました。

令和4年度は、日本看護協会から、「新型コロナウイルス感染症対応看護職員等の人材確保事業」を受託し、広域人材調整、新型コロナウイルス感染症対応看護職員離職防止相談、新型コロナウイルス感染症対応潜在看護職研修等の事業を行っています。新型コロナウイルス感染症対応潜在看護職研修では、復職する際に必要な基礎的知識をeラーニングで事前学習し、新型コロナウイルス感染症対応を想定した、防護用具の着脱、酸素ボンベや、酸素濃縮器の取り扱い等の演習を行っています。受講後はナースセンターの職員が、就職支援を行い、職場復帰を目指します。

7月下旬には第6波を超える感染者の急増により、医療機関等のクラスター発生も報告され、複数の看護管理者から職員の不足についてご相談をいただくようになりました。ナースセンターでは、職員の急な募集に対応し、地域の登録看護職へ応募の働きかけ、高度・専門看護職の派遣、職員に対する悩み相談等のご案内をしました。今後も会員の皆さまのご意見をいただきながら、感染状況や、埼玉県の現状に則した対応を検討していきます。

埼玉県ナースセンターは埼玉県知事指定のもと、埼玉県看護協会が運営している無料職業紹介所です。事業として無料職業紹介、届出制度啓発、復職支援、看護職の就労環境改善、看護職選択への啓発等を行っています。令和4年度は特に、埼玉県 保健医療部 医療人材課と連携をとり、看護職の潜在化防止・就業促進を目的として、「看護師等の届出制度」や、ナースセンター事業の広報活動を強化しています。ナースセンターの事業をより多くの方々に知っていただき、ご活用いただけるように活動していきますので、今後とも会員の皆さまのご支援、ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

第16回 医療安全大会

開催日 令和4年11月5日(土) 13時～16時30分

形式 オンライン開催

申込者 660名

医療安全推進委員 副委員長 金子由香子

第16回埼玉県医療安全大会に660名(看護職543名、他職種117名)と多くのご参加をいただき無事終了しましたことを、心よりお礼申し上げます。

今年度のテーマは『チームの力を高める医療安全』で、前年に引き続きオンラインでの開催となりました。

第一部は近畿大学病院安全管理部 医療安全対策室 教授 辰巳陽一氏による「チームの力を高めるために！心理的安全性からポジティブ心理学へ-Googleから組織多様性を学ぶ-」についてご講演いただきました。医療チームにおいて多様性を認識し、異なること・意見の違い・知らないこと・間違えることを認めることの大切さを学びました。また、ポジティブ心理学では、例文を交えながら具体的な会話について知り、現場で即実践できる内容でした。

第二部は東京海上日動メディカルサービス株式会社 山内桂子氏による「事故事例から学ぶ心理的安全性の意義」についてでした。心理的安全性のある職場は、医療事故を未然に防ぐことに繋がることを学び、そのために心理的安全性という言葉や概念をチームに普及させることが大切だと再確認できました。

質疑応答の時間では活発に手挙げ機能が活用され、現場の悩み・医療安全を進めていく中での疑問等に対して講師の方から丁寧な回答がありました。それを参加者全員が共有でき、オンライン開催の利点をいかした大会となりました。

今回の医療安全大会は、チーム医療への意識の高さを感じられる時間となり、医療安全管理者として今後も心理的安全性を高めていくための後押しをしていきたいと思います。

認定看護管理者教育課程

サードレベルが閉講しました

2022年度認定看護管理者教育課程サードレベルは、令和4年8月25日、まだ暑い中で開講式を迎え、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、オンライン研修も取り入れながら、肌寒さをも感じるようになった10月27日、予定していたすべての課程を終了し、全員で閉講式を迎えることができました。

今年度は、埼玉県内はもとより、沖縄・長崎・栃木・群馬・東京 と全国から17名が受講してくださいました。

当初は、国や看護界全体の現状や施策・制度、トップマネージャーに求められる役割等と、幅広く深い講義の連続に、「ついていけない」「頭がいっぱい」と不安や困惑を吐露することも多かった受講者が、研修が進むごとに、得られた知識を関連付け自らの今後の実践にどう活かして行くか、具体的に考えられるように変化していきました。統合演習においても、直前まで検討を続け、受講者間で支援しあいながら、経営企画書を作り上げていきました。

講義・演習を担当いただいた講師や演習アドバイザーからの多くの支援があつてのことですが、自らの力で学び成長していく皆様を、頼もしく思っていました。

認定看護管理者には、論理的思考、自らの考えをわかりやすく表現する力、俯瞰する力、多くの能力が求められます。加えて、自施設はもちろん、地域の様々な役割や機能をもつ機関と連携、地域を巻き込んで現状を変革していくといった役割も求められています。

この研修での学び、築いたネットワークをいかして、これからも学び成長し続け、トップマネージャーとして活躍していかれることと期待しております。



災害に備える

水害机上訓練を実施して



さいたま市民医療センター

看護部長

相馬 真貴子

当院は、埼玉県災害拠点病院の指定を受けた第二次救急医療機関です。また、2009年に開院し、耐震性能を備えた構造で建設されました。2011年3月11日に発生した東日本大震災では、埼玉県においても震度5強が観測されましたが、病院機能に大きく影響する被害はありませんでした。このような経験から、震災をはじめとした災害に強い施設であると感じているなか、2019年10月12日の台風19号の大規模河川氾濫がおきました。

埼玉県内でも、さまざまな場所で冠水をはじめとした被害が報告されていたのではないかと思います。当院は一級河川の荒川と鴨川に挟まれた立地にあり、周辺地域では翌13日の明け方に避難指示が発令されました。地域で河川が氾濫した場合には、当院は3.0M～5.0Mの水位まで浸水する可能性があるかと想定されており、病院の電気設備が地下1階にあるため、非常に深刻な被害が及ぶ可能性がありました。しかし、その時点では災害対策マニュアルに水害についての具体的な方針が策定されていませんでした。よって、その時の対応策として、氾濫時に確実に浸水することが予測された地下の物資（非常食や薬品庫にある薬剤）を2階フロアへ搬送、地下駐車場にある救急車や商用車などを一階の平面駐車場に移動するなど、限られた人員でその時に考えられる対策をとった記憶があります。これらの経験を教訓に、組織内では水害に関連した訓練の重要性の意識が高まり、2020年10月に1回目の水害机上訓練が実施され、今年度10月に2回目の訓練が実施される予定です。

今年も全国各地で、異常気象による水害の被害が起きています。そうしたなか、各施設でも、災害対策として、日頃よりスタッフ一人一人が施設周辺の被害想定などに対する理解を深め、定期的に他部門と情報共有する機会をつくり、組織全体で万一来臨に備え準備しておくことが重要ではないでしょうか。

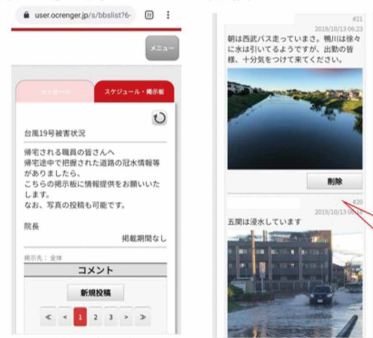
■第1回 水害机上訓練の実施内容

受講者	医師・看護師・その他医療職・事務
訓練概要	1) 洪水ハザードマップの浸水想定に則り、河川氾濫によって地下1階・1階が浸水したことを想定する。 2) 想定した内容より見えてきた課題や問題点をもとに災害対策マニュアルの見直しを行なう。
訓練内容	1) 座学 当院の水害想定（地域防災計画・洪水ハザードマップ）・避難誘導・防災体制の確立と役割分担・トリアージタグの書き方について学ぶ 2) 演習 各チームで各部門の水害対策についての問題点を考える 3) 実技 ①通信：院内の被害情報報告・EMIS入力・緊急時一斉メッセージ配信ツール（オクレンジャー）の活用 ②情報管理：災害対策本部訓練 ③トリアージ 4) 院内見学 自施設の水害対策設備についての理解を深める（止水板見学）



【施設見学】
2019年の台風19号の大規模河川氾濫があった後、地下に浸水するのを防ぐため「止水板」が設置されました

水害時における緊急時一斉メッセージ配信ツール：オクレンジャーの利用



帰宅時など、スタッフがタイムリーに周辺情報を投稿してくれました

身近な被災から学ぶ

埼玉石心会病院 副院長 看護部長 福島 俊江

関東甲信越の各地で一級河川の氾濫が起こり甚大な被害をもたらした2019年10月12日の台風19号から3年、この台風による死者・行方不明者は51人と報告されています。翌13日のテレビ報道で、勤務地狭山市に隣接する川越市では特別養護老人ホームが水没する映像が映し出されると、いてもたってもいられない衝動にかられ、これを契機に地域における防災・減災活動の必要性を痛感しました。幸いその施設では、職員24名による水平避難により高齢者100名の尊い命を繋ぐことができました。その後、今年度に入り2回ほど施設訪問が実現しました。誰一人も被害者をだすことなく対応した秘訣は、すべて普段の備えであることを学んだのです。それは毎年の台風のたびに夜間に待機職員を増員し、「今年も何もなく良かった」と言って解散。これがあったから2019年の水害時に対応できたとのことでした。

コロナ災禍の今、施設長から、「看護覚書を職員と一緒に一章ずつ勉強しているんです。ナイチンゲールが言っていることが、このコロナ禍で大変重要だということがわかりました」と、換気の重要性、衛生管理が非常に役立ち、この施設の入所者ではひとりもコロナ罹患者を出ていないと話されていました。施設長から学ぶ、災害マネジメント力に圧巻の思いです。コロナ禍にある今、感染症は災害なのかという疑問もありましたが、地震や台風、感染症あるいはテロなどと現象自体を問うものではなく、人の健康や生命を脅かし、人々の暮らしが壊れていくのであれば、それは災害であると考えようになりました。

身近な被災体験からの学びを活かし現在は、地域の中で活躍する看護職として、行政の方たちと共に防災・減災活動を企画している只中です。



社会福祉法人川越キングスガーデン
渡辺施設長（右）と共に

「まちの減災ナース」の活動

川口市立看護専門学校 専任教員 田口 多美子



戸田で開かれた、あいパルこどもランド、減災活動。避難所生活、防災カルタ、災害に必要な食、等の体験学習。



キャラクター『とめきち』

私は、災害に興味を持ち看護協会をはじめとして様々な研修に参加し、実際の災害現場でボランティアとして活動してきました。しかし、コロナ感染症の流行に伴い、千葉の台風、長野の台風の災害支援も行けなくなりました。災害も感染症の時代を迎えて、地域は自分で守る、地域コミュニティの果たすべき役割が明確になったと実感しました。埼玉は、大きな災害はないものの、最近でも台風による洪水、竜巻、大雪など気象災害は増えています。日頃から備える、自助、共助で防災、減災に取り組む静穏期の活動は大切です。

現在は、日本災害看護学会の学会認証を受けて、「まちの減災ナース指導者」として活動しています。私たちの活動は、地域における自主防災として、地域で、研修や講演をおこなっています。障害者を対象に行った研修では、実際にどんな思いを抱えているかを知ることが出来ました。子供を対象にした防災・減災では、子供たちは自分たちができる知恵をつける学習につながりました。また、地域の「まちの減災ナース」も育成しています。災害に興味をもつ仲間づくりです。地域で災害が起きたら一緒に活動できることを目指しています。

まちの減災ナース指導者は、現在4期生まで誕生し、各地域の減災活動を開始しています。「減災ナース」っていったい何をする人？と思われる人や、活動するにあたり行政との連携や、ネットワークづくりが苦労です。それでも私たちの活動で繋がった人たちが、災害に興味を持つ地域の人々が頼りにしてくれる実感がやりがいにつながっています。

災害発生時は、何よりも必要なのは自分の家族の大切な命を守ることです。楽しく学び、賢く備え、自分で行動できる。そして自分の地域は自分で守る。今後もまちの減災ナースとして活動していきたいです。

3.11メモリアル企画

「災害を考える日」

開催日 令和5年3月11日(土) 13:00~16:30 オンライン研修

テーマ あなたの地域の災害対策は大丈夫ですか

- 1 近年の気象災害について：気象予報士
- 2 地域における看護職の活動：まちの減災ナース

コロナ禍における感染管理認定看



埼玉県老人福祉施設協議会でのオンライン研修

埼玉県立循環器・呼吸器病センター

感染管理認定看護師 木村 めぐみ

当センターには2名の感染管理認定看護師がおり、院内の感染管理活動の他、地域の医療施設と連携しカンファレンスやラウンド、感染症発生時の相談・対応をしています。専従の感染管理認定看護師と協働し、兼任として外来業務を担当しながら、ICT活動、リンクナース会議の運営、研修等を担当しています。

今回、一般社団法人埼玉県老人福祉施設協議会の講師依頼を受けて、高齢者・介護施設で勤務されている施設長の方を対象に「アフターコロナに向かって 高齢者施設でのこれからの感染予防対策」というテーマでオンラインによる研修を担当させていただきました。

高齢者・介護施設の特徴として、利用者の方が常時マスクを装着することが困難であること、入浴、排泄、食事等の生活援助の場面が多いこと、集団生活のため感染症発生時にはクラスターとなる可能性が高く、利用者、介助者ともに感染リスクが高いことがあげられます。更に、コロナ流行期では医療現場が逼迫していることから、疑似症を含む陽性者を施設で受け入れなければならない背景がありました。それらの点を踏まえ、研修担当の方と研修内容の打ち合わせを行い、基本的な標準予防策と感染経路別予防策、ゾーニング、面会、施設内でのコロナ発生時の対応を中心に研修を行いました。

オンラインによる研修は、感染防止の視点から他者との接触を避けることができること、会場準備への労力を最小限にできること等、メリットがありますが、実際に施設を訪問し、施設の環境や限りある資源を考慮した上で、実践可能で効果的な感染防止対策を提案できることが重要であると考えています。今後も地域の医療・介護施設との連携を図り、地域全体の感染対策が向上できるよう努めていきたいと思ひます。

令和3年度派遣実績

介護施設への認定看護師派遣事業（埼玉県からの受託事業）

●感染管理認定看護師派遣実績 25施設 延べ364名受講

主な派遣先

●老人保健施設・老人福祉施設・特別養護老人ホーム・有料老人ホーム
保健所・児童相談所

主な活動内容

●講義・ラウンド・実技（手洗い・ガウンテクニック）

研修対象者

●看護職・介護職・リハビリスタッフ・栄養士・調理師・保育士・介護支援専門員
児童指導員・柔道整復師・事務職

護師の活動

地域における活動の紹介



介護施設での活動

東松山医師会病院

感染管理認定看護師 松本 恵美

この度、市内のグループホームから新型コロナウイルス感染症発生時の対応について講師依頼を受け、指導を行う機会を得ました。施設という生活の場で行う指導は、感染対策を実施するための環境や物品が整っている病院と違い、様々な工夫を取り入れる必要がありました。ゾーニングを行うと手洗い場が建物の外にあり、窓から外に出ることしかできない状況でした。そのため昼夜問わず手洗い場に行ける環境を整え、手指衛生の重要性を伝えました。また夜間は、ケアワーカーが一人体制で夜勤業務を行っていました。新型コロナウイルス感染症が発生した際は、10時間以上个人防护具を装着したままレッドゾーンで業務を行う想定になっており、个人防护具を長時間着用することは体力的にも困難であり、介護する側の感染リスクも高まります。个人防护具は着用していれば安全という考え方から、感染リスクがあるものだという考え方にシフトする必要がありました。

生活の場で新型コロナウイルス感染症対策を行うことは、想像以上の苦労があることを、この活動の中で改めて学ぶことができました。認知症のある入居者の方が多く、感染対策に協力を得られない状況のため、様々な場面を想定し、職員の方と一緒に対策を考えました。職員の方々の一人でも多くの入居者をこの新型コロナウイルス感染症から守りたいという思いが、指導を行っている中で、とても強く伝わってきました。私自身も自施設で同じ思いを持って業務を行っています。同じ地域の中で、同じ思いを持つ職員の方々に出会えたことは、私自身の励みにもなりました。

これからも派遣事業を通して地域とのつながりを大切に、ともに感染対策に取り組み、地域全体の質の向上に貢献していきたいと思えます。



埼玉県乳児院連絡協議会での活動

ナレッジナース代表

感染管理認定看護師 朝倉 智美

今回、認定看護師派遣事業を通し、感染症予防対策相談を利用した乳児院から『相談時の内容をより多くの乳児院と共有したい』という依頼があり、埼玉県乳児院連絡協議会の感染対策研修を担当しました。

研修には、県内乳児院の管理者や看護師・保育士などがオンラインで参加し、座学・意見交換を行いました。感染の基礎知識のほか、抱っこ・午睡・乳幼児の目線など特徴に合わせた具体策の説明後、各乳児院で実践している対策の意見交換や解決策の提案をしました。

乳児院は、安全面から窓やドアの解放・扇風機の設置が難しく『密閉空間』となりやすい、抱っこや遊び・午睡など『密接』『密集』を避けることが難しい、誤飲の危険があり手指消毒用アルコールの設置には注意が必要、感染対策が乳幼児の成長発達の妨げにならないような配慮が必要など、日常生活と感染対策の両立に苦慮しています。今回の活動では、乳児院には環境や乳幼児個々の特性など施設による違いがあり、想像以上の難しさがあること、ガイドラインや本には載っていない具体的な対応を知りたいというニーズがあることを実感し、私自身の今後の活動に活かすことができる貴重な経験になりました。また、現場の職員と認定看護師が意見を出し合いディスカッションすることで、より現場にあった最善の対策を考える助けになると考えます。

選挙管理委員会・推薦委員会からのお知らせ

令和5年度改選役員、推薦委員及び 令和6年度日本看護協会代議員、予備代議員への立候補・推薦について

選挙管理委員会からのお知らせ

令和5年6月に開催される通常総会（会場：埼玉県看護協会研修センター）で、令和5年度改選役員、推薦委員及び令和6年度日本看護協会代議員、予備代議員の選挙を実施します。立候補される方は、正会員5人以上の推薦を受けて、立候補届出用紙を下記に郵送してください。

■ 改選役員数と役職

1. 改選役員
 - 会長候補者 1名
 - 副会長候補者 1名
 - 常務理事候補者 2名以内
 - 職能理事候補者 各1名
(助産師・看護師Ⅰ・看護師Ⅱ)
 - 地区理事候補者 1名以内
 - 監事候補者 1名(看護師)
2. 推薦委員 9名
3. 令和6年度日本看護協会代議員 25名
予備代議員 25名
※3.の人数は想定

■ 立候補基準

1. 役員(任期2年)
 - (1) 埼玉県看護協会の目的達成のための活動に積極的に任務を遂行できる人
 - (2) 埼玉県看護協会の会員歴5年以上で、協会の役員又は委員としての活動経験を持ち、協会組織を理解している人
 - (3) 埼玉県看護協会が定めた会議に出席できる人
2. 推薦委員(任期1年)
 - (1) 埼玉県看護協会の目的に沿って組織を強化・発展させることができる人
 - (2) 埼玉県看護協会の会員歴5年以上で、協会組織を理解している人
 - (3) 埼玉県看護協会の実情をよく知り、定められた会議に出席し積極的に任務を遂行できる人
3. 代議員・予備代議員(任期1年)
 - (1) 日本看護協会の理念・目的を理解し、1年間代議員としての責務を果たせる人

- (2) 埼玉県看護協会の会員歴5年以上で、協会組織を理解している人
- (3) 日本看護協会総会に出席できる人

■ 受付期間

立候補届出用紙は埼玉県看護協会にありますので、ご連絡ください。

【連絡先】 埼玉県看護協会：TEL048-624-3300

【送付先】 〒331-0078
さいたま市西区西大宮3-3
埼玉県看護協会
選挙管理委員長宛 **親展**

【提出期限】 令和5年2月17日(金) 必着

推薦委員会からのお知らせ

令和5年度改選役員、推薦委員及び令和6年度日本看護協会代議員、予備代議員の候補者を推薦される場合は、正会員5人以上の推薦が必要です。推薦していただいた方々につきましては、推薦委員会で協議の上、候補者として推薦を確定させていただきます。

■ 改選役員数と役職

選挙管理委員会からのお知らせと同じ

■ 推薦基準

選挙管理委員会からのお知らせの立候補基準と同じ

■ 受付期間

推薦書は埼玉県看護協会にありますので、ご連絡ください。

【連絡先】 埼玉県看護協会：TEL048-624-3300

【送付先】 〒331-0078
さいたま市西区西大宮3-3
埼玉県看護協会
推薦委員長宛 **親展**

【提出期限】 令和5年1月27日(金) 必着

編集後記

広報委員会

今回は災害に備える、減災について取り上げました。災害時には、どんな状況か情報を集めたり、家族や関係各所と連絡を取り合う手段が必要です。日ごろからスマホがないと生きていけないといっても過言ではない現代では、災害時には特にその需要が高まると予想されます。今年の夏は電力が逼迫したこともあり、危機感を覚え、個人でできる備えとして、ソーラーバッテリーを購入しようと試みました!しかし検索すると、重いというレビューばかりで、もう少し手軽に持ち歩けるような改良を望みながら、未だ購入に至っておりません。今回の特集を機に、思い切って一歩踏み出し、自助努力したいと思えます。末筆ではありますが、本号編集にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

広報誌「さいたま」133号はいかがでしたか? アンケートで皆様の声を聞かせてください。奮ってご参加ください。

◆応募締切: 令和4年12月31日(土) まで

▼アンケート内容

- ① 興味をひかれた記事はありましたか。
- ② 災害に対してどんな備えを行っていますか。
- ③ これから取り上げてほしい内容がありましたらお聞かせください。
- ④ 本号へのご意見、ご感想をお聞かせください。



回答はこちら